
君の詩

眠心

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君の詩

【コード】

N9793D

【作者名】

眠心

【あらすじ】

「君の詩」他3作品を収録しています。心の一休み程度に読んで頂けたら幸いです。

「君の詩」

遠くに見えるあれが何かを君は知ってる

昇る太陽でもなく沈む夕日でもない

僕は目を凝らして必死に探すけど

もう少しのところで逃げてしまっんだ

近くにありすぎて見えない今を

遠くの君から教えられた

もつと大切な何かを見落としてはいないだろうか

君がくれた大きな愛を何処かに忘れてはいないかな

2人歩いた季節の中で共に巡ってきました

愛は確かに此処にありました

「あなた」

きっかけをくれたのはあなただった

立ち止まった時 手を差し伸べてくれたのはあなただった

元気がない時 励ましてくれたのはあなただった

いつも周りに助けられ 自分は何にもしてあげられなかった

いつの間にかもうすっかり冬です

風邪などひいていませんか

便りで出した手紙にそう書いた

しばらくすると返事が届いた

あなたがいるから私は元気でいられるよ

凍えた指先が少し温まった気がした

「夕焼け」

夕焼けを眺めていた

思い出すたび涙が潤む

鳥籠に入ったままの昔の記憶は

そのままにしておこう

無口なあなたは僕に瞳で合図を送ってくれた

鈍感な僕はあなたの姿を見つめているだけ

そつと口に出した言葉を夕焼けが赤く染める

あなたに伝わったかはわからないけど

僕はそれで満足だった

大人なあなたは何処かに行ってしまうのかな

子供な僕はずっと此処にいるのだろうか

2人の距離は離れていたって

夕焼けを見るたび思い出すんだ

「おやすみ」

おやすみって言いたくてあなたの影を探した日もありません

ありがとうと言いたくて私はあなたを待ちました

思い出達にお別れできなくて

波音だけを聴きにこの浜辺に来ました

素足にかかる海の冷たさがあなたの今の気持ちですか

私の事を分かってほしくてあなたの姿を見失った日もあり
ました

私のわがままを聞いてほしくてあなたの姿を追いかけた日
もありました

過ぎ去った時間にお別れできなくて

空の青さだけを見にこの丘へ来ました

この瞳に映る広い空はあなたの心を表しているんでしょうね

今日から良く眠れそうです

あなたにお別れを告げたのですから

おやすみなさい そしてさようなら

(後書き)

詩ブログみたいな物をやっています。他の作品も収録していますので興味のある方はお越し下さい。

<http://tsiroto.exblog.jp/>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9793d/>

君の詩

2010年10月11日19時52分発行